

令和7年度北本市立宮内中学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		外部評価					
			A+B /全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ				
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等工夫している。	100%	○行事そのものをなくすだけでなく、内容の精査を行い、必要かどうかを検討する。  ○熱中症の予防や対応(WBGT計測や夏休み中の対応など)について校内マニュアルを作成し組織的に対応できるようにする。  ○特に生命に関すること、いじめにつながる案件は早急な情報共有を行う。また日頃からのコミュニケーションや全員で関わる意識を醸成しつづける。	A	学校の取組に関する評価と今後の改善点等				
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学年・学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。	96%							
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成、指示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	100%							
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。	96%							
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いた様子で、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100%	生徒アンケートの結果を見ると、「授業理解」「提出物」「学力向上」「評価」「学習意欲」に関する項目に課題があると思われたい。【何がわからないのか生徒自身が理解できていない可能性が高い】考えられる理由【分からないことをそのままにしている可能性が高い。改善案に黒板等に内容が残されているか。】 【改善策】 ・教員がしっかりと授業の見通しを立て、生徒が理解しやすい環境を追求し続けていく。 ・相談箱を設置し、わからないことを気軽に相談できるようにする。(通年) ・授業理解についてのアンケートを実施(理・英は実施中) ・ICTと紙のバランス(IGTは授業の内容が消えてしまう可能性がある)によって、授業中に内容を残しながら授業ができるか確認する 毎授業、この内容はどの評価に入っているのかを明確化にすることで、生徒自身が何を評価されているのかがわかり、学習意欲が向上する。 自立的な学習者の育成→15分チャレンジ等をうまく活用し、学習習慣の定着を図る(経過観察中)  県学習の結果を三者面談等で活用(学力を定着させるために)・・・母体の大きいテストを増やし、学力の定着をはかる。	A	家庭学習、自主学習は永遠のテーマかもしれませんが、子どもたちが学ぶことを楽しいと感じるようになれば、自ら学ぶモチベーションが生まれるのではないのでしょうか。人はもともと、この世界のことを知りたがり、分らないことをわかりたいと思うのが本性だと思います。学ぶことが面白いと感じる経験をさせたいと、自分が仕事をしているときは心がけています。 ・先生が他の先生の授業を見学する事はとても意義深いと思います。ご自身の授業準備にも役立ちますし、授業内容・授業展開等の参考にもなります。お忙しいとは思いますが、是非実施して頂きたいです。 ・家庭学習について、先生方の中でも必要と必要のない両極の意見がある事に正直戸惑いを感じます。復習こそ身につくものだと思うので、宿題の出し方が先生によって違ってくるのでしょうか？生徒・保護者の不安材料になるのでは…?と思ってしまうです。 ・学習環境を定着させる意味でも、子供まかせになりがちな家庭への働き方が大事になると思います。先生方だけが頑張らないでください。 ・学校の取り組みは、素晴らしいと思います。 ・授業改善となれば◎良かったよ、できたよ、伸びたよと感じられる授業を目指すよと良いと思います。教師の言葉がけも ＜英語の例＞①今の発表はよかったね→②今の発表は、発音がよかったね→③今の発表は発音が良かったね。もう少し強弱をつけるよと良くなるよ。 ＜体育の例＞①今の跳び方は、よかったね→②今の跳び方は着手が良かったね③今の跳び方は着手が良かったね。もう少し勢いをつけるともっと良くなるよ、と具体的にほめ、次の課題を明示したいのではないのでしょうか。 毎日やっていることだとは思いますが、一応書きました。 ・わからないことがわからない…そんな生徒を教員出すことは大変な苦勞かと思いますが、不登校の原因を少しでも掘り取ることもつながると思うので頑張ってください。 ・学校の15分チャレンジ、定着してきている様子…。家庭15分チャレンジ!!の設定賛成です。(家庭で何を勉強したいのかわからない生徒にも有効かと思う) 個別の支援を要する生徒への対応を含め、課題研究のテーマである「自立的な学習者の育成」の視点で、今年度の教育活動を振り返りながら、次年度の改善に活かしていただきます。 家庭学習の定着については、A+Bと答えた生徒86%、保護者70%ということなので、より具体的な対策が必要と感じます。9年間の学びを意識し小学校も努力していきます。 改善策も問題把握も適切である。評価の可視化たとえば振り返りシートをタブレットに残しておくなどの方策もある。自立的な学習者の育成についても15分チャレンジの達成度を確認していくこともできると考える。				
	6	教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。	96%							
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。	100%							
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に関与するなど工夫している。	88%							
	規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。				96%	○学校全体として、敬語が使えていない生徒が多い。教員もそのまま生徒の不適切な発言を見逃していることもある。 ○教員に対して距離感が近い生徒が多い。心の距離が近いのは精神的に安心し、相談しやすいというメリットもあるがきちんと適切な距離感や礼儀を教えることも大切なので、その都度全職員が指導を徹底して行っていく必要がある。  ○「何か目標をもって学校生活を送っていますか」という質問に対して、3年生の○Dの回答した割合が多い。数年前までは学校全体で統一して各学期の目標を短冊に書いていた。現状として、1年生→各学期実施(振り返り未実施)、2年生→各学期実施(振り返りも実施)、3年生→短冊の目標は行っていないが、各行事に応じて実施している状況である。特別活動として観点として、全学年統一する各学期の目標を必ず書くようにするから、常に見える形で掲示するべき。	A	いつも明るき大きな声であいさつしてくださり、嬉しくなります。特に男子が素晴らしいです。思春期で恥ずかしいという気持ちはあるでしょうけれど、きちんとできていて、とても気持ちが良いです。 挨拶は基本ですので、先生方と生徒、生徒同士のコミュニケーションが活発に行われているのだからな…と想像できます。生徒たちは「親しき中にも礼儀有り」を常に意識できると良いですね。 ・目的を持って生活することはとても大切ですし、目的があるから、それに向かって日々努力できます。しかし大きな目的だと、到達するまでに時間を要する為の小さな目標を立てるのがいいのではないかと？ 目標を一つ一つクリアするで、楽しさと嬉しさを実感できるモチベーションが上がるのではないのでしょうか。 ・あいさつや礼儀、言葉遣いは、高校へ進学へ社会に出て大切な事柄… まずは、教員同士がどうなのか？教員が生徒に対する言葉遣いは間違っていないのか？…再確認する時間があったらいいと思います。 ・小学校生活をコロナ禍で過ごしてきた生徒達…コミュニケーション能力が不足しているのは否めないと思います。構造的グループエンカウンターの設定は、良いと思います。 ・あいさつは、生徒98%、保護者80%ということなので、よくできていることがうかがえます。あいさつができる宮内中学校の生徒は、素晴らしいです。今後も継続してください。 ・正しい言葉遣いについては、教室を訪問させていただいた際に、教員が生徒に対して「お前ら」という言葉を投げかけた場面にも遭遇し、とても驚きました。授業を参観する中で、とてもよい雰囲気での授業をされたという教員と生徒の関係性がよいことはわかりました。しかし、「お前ら」という言葉は、荒々しい表現に感じました。教員が、言葉遣いの範を示すことが、生徒の正しい言葉遣いにつながると思います。ぜひ、教職員の言葉遣いも学習環境づくりの一つと捉えていただけたらと思います。 中高連携で、高校の面接・プレゼン評価観点(礼節・表現)を中学校と共有できるように行事を高校の教員を講師にして行わせていただき、言葉遣いやマナーの大切さを学ぶ機会を提供したいが、どうか。
		10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に合った正しい言葉遣いができる。				92%			
		11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。				96%			
		12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。				100%			
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりを意識的に取り組んでいる。	100%	A	・フットボール洗口はとても良い習慣だと思いますので今後も継続していただくと良いと思います。 ・睡眠時間の確保は、やる事が多い現在では、なかなか難しい問題です。時間を有意義に使えるようご指導いただくと良いかと存じます。 ・学力向上については、生徒と保護者アンケートに項目がありますが、体力向上については、設けられていないでしょうか。もししたら「交通安全やけが、病気の予防に努めている」が、これにあたりませんか？体力について、問う項目があってもよいと思います。先生方の100%をどう評価してよいのかごだけ迷います。先生方の自己評価からは、先生方が日々頑張っていただけていることはわかりました。 ・項目14は、100%に達成していないこと、改善点が示されてもよいかと思ます。					
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	96%							
保護者・地域・異校種間連携	15	本校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	84%	A	地域や保護者にとって、学校が子どもたちを育てるための場であり、先生がたはそれのための同志であるという認識になっていくべきかと思っています。地域の人、保護者も、学校の問題はすべてが我がごととして一緒に考え取り組むようになるのが理想です。保護者の中には、学校はサービスを提供するところという認識の人が増えている様な危惧を覚えます。地元自治会長や民生委員なども、もっと活用してよいのではないのでしょうか。コロナ禍以前と比べて関係が薄くなっているような気がします。 ・本年度は音楽界の立暗で先生方と一緒に行動する機会がありとてもよかったのですが、場所によってはペアになった先生とほとんどお話しする時間もなく(立つ場所が離れていた)終わってしまった箇所もありました。 ただ、PTA活動に参加していただき、積極的に交流を…という考えはとても嬉しいですが、いろいろな機会を探ってお互いの活動に理解を深められたらと思います。 ・昨今の保護者様は、PTA活動を敬遠される方が多いと伺います。また関わりたい気持ちがあっても、時間的に忙しい等、ご家庭毎にそれぞれの理由があり、見守りもなかなか難しいのでは？と推察致します。 私たち民生委員、児童委員、主任児童委員でお手伝い出来る事があればご遠慮なくお声掛けください。・行事や日々の活動をマナーHPにアップしていただくことにより、その場に居なくても生徒たち様子が分かることも有り難いです。保護者も安心だと思います。 ・紙ベースの情報よりもいつでもスマホで拝見できますのでとても便利です。お忙しい中で写真撮影等大変だと思いますが継続していただけたら有り難いです。 ・マナーHPでの連絡内容、またタイムラインへの投稿、掲載など、教員同士の情報共有と確認が必要かと思ます。 ・地域の民生委員もPTAと協力して定期的にパトロールなど、声をかけていただければ、見守り活動でお役に立てることもあると思ます。					
	16	本校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果、課題等について情報提供している。	96%							
	17	本校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	92%							
	18	本校は、異校種間(幼保小、中等)の連携を積極的に推進している。	100%							

学校独自の項目					
規律ある態度の育成	1	学校行事や部活動等において生徒は意欲的、積極的に取り組んでいる。	100%	A	・ホットルールの設置が午前中のみ 一学年が上がるにつれて起立性調節障害の生徒が、体感ですが増えてきている気がします。実際に起立性調節障害の生徒を持つ保護者からも「学校に行きたい気持ちがあるのに(ホットルールを利用したいのに)午前中のみなので利用が叶わずとても残念」と伺いました。 支援員さんの問題等、いろいろと難しいと思いますが、設置時間の延長を検討していただけたらと思います。 ・いつおじやませせていただいても、宮中とはとてもキレイです。頑張ってお掃除しているのだなあ！と感心いたします。 ・キレイにしようという気持ちで取り組んでいるのでしょうか。 ・いじめに関しては、前述も致しましたが、「親しき中にも礼儀あり」を生徒たちがいつも心に留めて行動すれば悪ふざけが過ぎないじめにも発展しないように思います。 ・不登校生徒に関しては、起立性調節障害や、心の病気等要因はそれぞれですが、病気以外の生徒は、御家庭の問題があることが多い気がします。先生方は、お気遣いやお声掛けをしてくださいたいと思います。保護者の考え方や生活習慣が変わらないと難しいですね。ご苦労が多いと存じますが、引き続きよろしくお願ひいたします。 ・自己評価シートに清掃に関する意見や改善策をたくさんの先生方が書いています。 それだけ指導の悩みや重視している項目なのかと思えます。 ・小学校の評価項目には清掃に関する記載はありません。 ・小学校から基本的な清掃のやり方が身につけていないことも一因かと思えます。 ・小中一貫4・3・2・制のまさに「3」の部分で小学校・中学校で連携した細やかな指導と清掃マニュアルのようなもので共通の理解が得られると良いと思います。 ・項目2について、学校全体で、改善策を検討し、実行していただき、生徒の変容をしっかりと見届けていただければと思います。また、家庭での手伝いや部屋の整理・清掃については、A+Bと答えた生徒70%、保護者50%と低い結果となっています。中学生は、部活動などで多忙だと思いますが、家庭での手伝いや部屋の整理・清掃の取組を意識化させる取組を実践すると学校生活にも生きてくのではないかと感じました。 ・いじめに対する正しい判断、行動は、A+Bと答えた生徒生徒100%となっており、意識の高さがうかがえます。週1回実施の教育相談部会は各学年の様子の変化がわかり、情報共有や対応の相談の場として貴重な時間と感じている教員がいるので、今後ぜひ継続し、いじめ撲滅に向け尽力していただければと思います。
	2	生徒はものを大切に扱い、積極的に清掃に取り組むなど、環境整備、美化に努めている。	81%		
	3	生徒は道徳性を高め、いじめや差別に対して正しく判断し、行動している。	96%		
	4	教育相談を計画的・組織的にを行い、いじめ・不登校等の問題に適切に対応している。	96%		
保護者・地域・異校種間連携	5	学校公開・授業参観・懇談会等をねらいを明確にし、計画的に実施している。	100%	A	・セキュリティの面では、先生方全員で、気に掛けて下さっていて安心しておりますが、先生方が被害に遭わないよう、ご留意いただきたく存じます。 また、理科で使う薬品等が入っていた扉のことでしょか…先生方が開閉の様子を見届けて下さっていることも事故防止の観点から安心です。ご面倒でも引き続きよろしくお願いいたします。 ・ITCに関しては、事業参観で拝見する限りITCと板書のバランスはとれているのでは…と感じております。 ・ITCは視覚に訴えかけるので、印象付け、理解や興味が増えると思います。発言が難しい生徒や書くことが苦手な生徒も積極的に授業に参加しやすいと思います。その反面、漢字や文章を書けない生徒が増える、文字を書くのが遅くなる等のデメリットもあります。板書からノートは、自分の手を動かすので頭に入りやすい等々、一長一短がありますね。 ・その都度の声かけだけで大丈夫ですか？もっと具体的な対策が必要だと思います。 ・宮内中学校の教員は、ICT機器を積極的に活用されていると思います。今後、時間のない中ですが研修を実施していただけたらと思います。 ・情報管理の徹底、扉の「開けたら開める」「開いていたら閉める」の徹底が、教職員事故の防止、不審者の侵入防止につながります。生徒の安全のためによろしくお願ひします。
	6	教職員は情報セキュリティポリシーに基づき、情報管理の徹底に努めている。	96%		
	7	教職員は来校者への声かけや旋回の徹底により、不審者による事故防止に努めている。	100%		
	8	教職員は文章や会話において、言語環境を整えようとして努力している。	100%		
	9	教職員は、授業の中でICT機器を効果的に活用している。	96%		
来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)				学校運営協議会の総評	
各学年の発達段階に応じた、時と場に応じた正しい言葉遣いのできる」の項目のA評価を全体の50%にする。(R7年度は、全体の23%、26人中6人であった。) 1年生に対して、中学校の生活の進め方を丁寧に指導するとともに、規律ある授業を徹底し、学習環境を整える。すべての教育活動の中で、言葉遣いの指導を粘り強く行う。 2、3年生に対しては、学年開き、学級開きの際に望ましい生徒像(発達段階に応じた)の共有を行うとともに、折に触れて社会性の必要性を説いたり一緒に考えたりする。「親しき中にも礼儀あり」の文化を浸透させる。				部活動が縮小していくとすれば、代替となる行事、生徒会活動、委員会、学級活動などが重要になりますね。転換期の生みの苦しみはあるかもしれませんが、乗り越えていただきたいと思っています。地域の人間として、お手伝いできることがあれば声をかけてください。 いつも生徒たちのためにご尽力下さりありがとうございます。 保護者様からの言葉や、生徒アンケートを拝読致しますと、皆様先生方に感謝の気持ちをお示しですので、先生方が一人ひとりの生徒、ご家庭に気を配ってくださっていらっしゃることを有り難く思います。 いくつかの課題があるのは当然のことです。今でも通り、その都度ご対応いただき、難しい年代の生徒達がよりよい学校生活を送れるよう、また、宮中が母校でよかつた！と今後の人生で思えるよう引き続きご指導よろしくお願い致します。 ・ほぼ適切な評価だと思います。 本来なら、礼儀やあいさつ、言葉づかいなどは、小さいころから家庭で育むもの…それがなかなか難しくなってきたのも現実。先生方には、今後も子供たちの心を育てるような指導を期待します。 ・先生方が自己評価、改善案を明記しているのに、このまとめの表に反映されていない項目がある。その部分は、改善の必要がないのか？ さほど重要な項目ではないのか？もう少し丁寧な先生方の声を拾い上げてほしいと思います。 小中一貫教育を進めていくうえで、宮内中学校の先生方のがんばりを心強く感じています。できる範囲で、小中共通の課題意識をもち、教職員、児童生徒の交流を進められたらと思います。 正しい言葉遣いは、小学校でも意識を高め、教職員が率先垂範し、学習環境を整え、「親しき中にも礼儀あり」を念頭に指導していきます。 今後も、生徒が「学校が楽しい」と思える宮内中学校を継続していきましょう。 1年生に対して中学校生活の進め方を丁寧に指導し、規律ある授業と学習環境の中で言葉遣いを粘り強く指導する方針は、基礎的生活習慣の定着という点から妥当である。また、2、3年生に対して、望ましい生徒像を共有し、「親しき中にも礼儀あり」という価値観を社会性の観点から考えさせていく取組は、発達段階に即した指導として評価できる。来年度から県立高校ではすべての学校で面接が行われるので進路と絡めてすべての教育活動を通して教職員が共通意識をもって継続するといひではないか。	

北本市立宮内中学校 学校運営協議会(敬称略)	外部評価実施日
会長 石井 登志夫 副会長 深井 正美 委員 岩崎 しのぶ 委員 宮崎 美恵子 委員 大竹 郷美 委員 西山 宏 委員 本城 千晶 委員 内田 浩子 委員 野本 慶人 委員 谷掛 寿	第1回 令和 7年 11月 13日(木) 第2回 令和 8年 1月 30日(金) 第3回 令和 8年 2月 19日(木)

- \*「自己評価の適切さ」について**  
 A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である
- \*「改善に向けた取組の適切さ」について**  
 A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる  
 C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する
- \*学校の取組に関する評価と今後の改善点等について**  
 ・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。  
 ・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。
- \*その他全体的な留意点**  
 ・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)  
 ・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。  
 ・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めてください。  
 ・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。